

介護ビジネスの未来を創る
週刊高齢者住宅新聞

Elderly Press Newspaper

2022年(令和4年)

10月5日

第688号 (毎週水曜日発行)

(株)高齢者住宅新聞社

〒104-0061

東京都中央区銀座8-12-15

☎03-3543-6852(編集部)

発行人 網谷敏数

年間購読料 23,100円(送料込・税込)

ホームページ

https://koureisha-jutaku.com

ユニマツRC

料理とリハビリハニ刀流で最新歩行ロボで体幹鍛える

ユニマツリタイアメント・コミュニティ(東京都港区)が展開する、料理をコンセプトにしたデイサービス「NANAIRO COOKING STUDIO自由が丘」では、9月より最新歩行ロボットを導入。特化型タイプとして料理療法を行う傍ら、歩行訓練も実施することで、立位で料理できる時間を延ばすことに努めている。



同施設は、3時間型で定員20名の料理特化型デイ。利用者の要介護度は1〜2が主だが、中には4、5の人

を増やし、椅子をなくしていくのはどうか』という改善策が出たことと語ります。

もおり、車椅子利用、麻痺を持つ人もいる。特化型デイでありながら歩行ロボットを導入した経緯について、事業統括本部の神永美佐子部長は「座って調理する方の椅子に他利用者がつまずく場面が続いた際、スタッフから『立って料理できる方

を楽しめる可能性が広がります」(神永部長)と語ります。データの活用で、出力も容易だ。体の傾きや歩行速度も数値化されるほか、歩行距離などはグラフで変化を可視化でき、持久力の維持・向上に貢献する。

立位だけでなく、洗い物や配膳もできるようなり、自宅でもできることが増えます。食材など買い物に行く機会も増え、もっと料理

チパネル画面で利用者の生年月日、身長、体重、性別と名前を入力し、個人に合わせて高さ調整を行う。そして時間もしくは距離で目標を設定し、負荷を5段階から選択すれば準備完了。情報はクラウドに記録されるため、二度目以降は利用者の名前を選択するだけで



▲おしゃれな内装になじむデザイン。「楽しく歩ける」と利用者
◀楕円形の調理卓の周りを歩行する

行える。「手引き歩行だと不安定な方でも、見守りのみで安定した歩行訓練ができます」(石川管理者)

調理工程丁寧に1回で5品作る
同施設で行うのは料理療法のため、調理工程は数多い。例えば、基本的には食材にも冷凍食品は使用せず、みじん切りや混ぜる、こねるといった作業も、利用者が手作業で行う。後片付けも、洗い物から拭き上げるまですべて手作業だ。

1回で5品を料理するが、献立は神永部長がシェフや栄養士と相談しながら作るという。

また、昨年より出来立ての食事のデリバリーも開始した。自由が丘の店舗より、送迎車を活用して昼と夕方に配達する。「コロナ禍でデイを休む方からの要望でスタートしました」と神永部長。「デイは休むが食事はほしい」「デイ利用日以外でも食事はほしい」といったニーズは多く、デイ利用者に限らず、一般への配達も増えているという。

「立って調理」在宅見据え支援

う。こだわっているのは、「季節の食材を使うこと」「作ったことのないようなメニューを入れること」。「元ベテラン主婦、という利用者も多い中で、季節感や初めての体験を感じてもらいたい」(神永部長)との考えだ。国内や世界各地の郷土料理を作る「クッ

事業統括本部
神永美佐子部長

「立って調理」在宅見据え支援

「立って調理」在宅見据え支援